

※文字の大きさはMSゴシック / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、適宜文章中に挿入してください。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No.

エントリー名：京都市立北総合支援学校 研究推進委員会

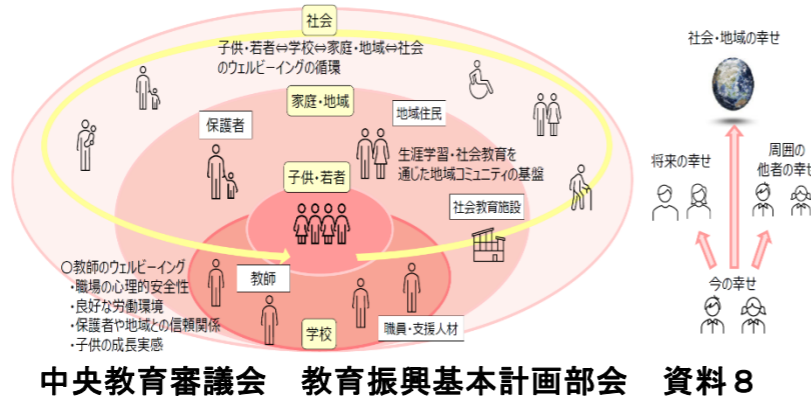
活動名：ウェルビーイングな学校づくり
 ～子ども・学校・地域社会が協働する実践から～

解決すべき課題：

- 今後の予測困難な時代において、**子ども・教員・地域社会の「ウェルビーイング向上」**が重要
- 子どもたちが**地域社会で豊かに生活するために、社会の障害理解を広げ、共生社会の形成を積極的に推進する役割**が、本校（特別支援学校）にはある
- 「学校の働き方改革」が推進される中、業務の効率化を図りつつ、教員自身も多様な働き方や生きがいを認め合える**「ウェルビーイングな学校」**を作る

目標・方針：

教員一人一人が、子ども・教員・地域社会の「ウェルビーイング」を描くことから始め、その実現に向けて、地域協働の授業実践と学校改善を進めていく。地域交流や社会資源の活用を増やすことで、子どもの学びはより生きた力となり、社会の障害理解を促すことになる。子ども⇄教員⇄学校⇄地域社会の**幸せの好循環**を目指す。



活動内容：

① 『あなた（北総合）の望む未来（Future we want）を描くことから始めよう』

【子ども】【教員】の「ウェルビーイング」に向けて、**I 必要だと思うこと**、**II 【地域社会】に望むこと**、**III 学校で取り組めること**について、全教員を対象にアンケートを実施した。

「あなたにとっての」(子ども編)…聞いてみました

Q1「(担当する)児童生徒のウェルビーイングに向けて、何が必要だと考えますか？」
 Q2「Q1を獲得するために、地域や社会に、どのようなものがあれば良いですか？」
 Q3「Q1・Q2を実現するために、学校ではどんなこと(取組・授業・環境作り)ができればいいですか？」

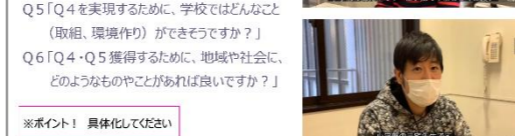


② 【子ども】の「ウェルビーイング」に向けて、**必要な力・学びをデザインしよう**

アンケート結果から、小中高それぞれの学部で出た意見をカテゴリー分けし、少人数の研究グループを編成した。コミュニケーション指導・地域協働・ICT活用など、一人一実践、研究計画を立てて取り組む。

「あなたにとっての」(先生編)…聞いてみました

Q4「あなた(先生自身)のウェルビーイングに向けて、仕事にどんなことを望みますか？」
 Q5「Q4を実現するために、学校ではどんなこと(取組・環境作り)ができればいいですか？」
 Q6「Q4・Q5を獲得するために、地域や社会に、どのようなものがあれば良いですか？」



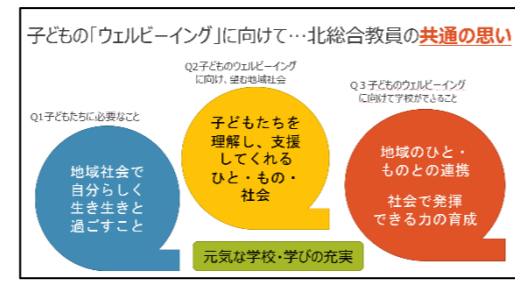
③ 【教員】の「ウェルビーイング」に向けて、**働き方改革に取り組もう**

教員の「ウェルビーイング」に関するアンケート結果から、支援部教員が一人一つ学校改善に取り組む。※月1回、研究日を設定し、プレゼンや協議を実施した
 ※「教育政策におけるウェルビーイング(内田由紀子先生)」や「ICT活用」の研修を実施

取組の過程：

○北総合の目指す「ウェルビーイング」の共通理解

学校全体として(120名の教員が回答)、【子ども】【教員】【地域社会】の「ウェルビーイング」についてどのように考えているか、アンケートの結果を視覚化して共有した。全校共通の思いや、学部ごとの特色などを共通理解するとともに、多様な考え方があることを周知できた。

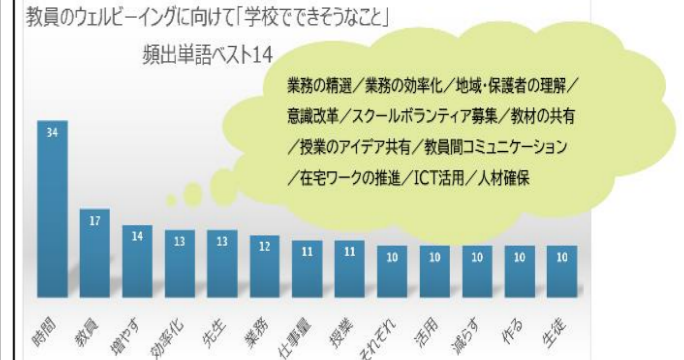


【子ども】【教員】の「ウェルビーイング」に向けて学校でできそうなこと(小中学部/全校)

アンケート結果から！ 小学部・中学部の先生方が「子どものウェルビーイングに向けて」学校できそう！と思うこと

小学部	中学部
<p>【Formsの回答より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、企業、団体との交流学習・理解啓発 ・地域の施設活用、地域の人との交流 ・安全な遊び場所、楽しめる場所・施設利用 ・ICTを活用したリモートや様々な授業、 ・校内での学部間交流、集団での遊びの指導 ・コミュニケーション方法の獲得 (ICTも含) 自分の思いを伝える ・実生活を見据えた活動、体験活動の充実 ・教材・環境づくり、授業づくり、専門性向上 	<p>【Formsの回答より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と交流する授業・活動 ・学校開放、イベント発信 ・コミュニケーションツール、ICT活用 ・社会に必要な力を身に付ける ・教材づくり、環境づくり、専門性向上
<p>＜全学部に通ずる内容＞ 地域社会資源活用・情報発信 交流・コミュニケーション・ICT・教材環境作り</p>	

アンケート結果から！ 全校の先生方が「教員自身のウェルビーイングに向けて」学校できそう！と思うこと



○一人一実践に取り組む【計画→実践→協議→中間プレゼン→改善→12月実践発表交流会！】

全教員が、「ウェルビーイング」に向けた目標を設定し、今年度の到達目標と具体的な計画を立て、実践を進めた。取組内容が共通する研究メンバーで、指導支援や環境の工夫、地域連携の授業づくりなどを模索し、子どもの「ウェルビーイング」を広げる、**社会協働の学び**を実践していった。教員が主体的に楽しく取組を進められるよう、アウトプット型の協議を工夫。
学校改善の取組は、「業務効率化」「教材サポート」「教員の専門性向上」「教員のリフレッシュ」が進められた。



中間報告会の実践プレゼン



事務作業の効率化に向けた「ICT小ネタ集(困り&テクニック集)」の発信や、ICT教材作成ワークショップなど、教員のニーズから多数の取組が実施された。(↓実践例)

- ・教材共有ツールの作成・活用
- ・外部資源活用先リストの作成
- ・ICT活用の効率化情報発信
- ・学校業務精選とマニュアル化
- ・教員用ストレッチ動画の作成
- ・教員のメンタルサポート充実
- ・LD通級、視機能、言語聴覚指導に関するミニ研修(3分動画)

SCのミニ学習会「漸進的筋弛緩法」

活動の成果：

○地域交流や社会資源の活用が激増→「本物の体験・社会との関わりの充実」と「理解推進」

年間で**105事例の実践**が進められ、その中でも、地域の小中高등학교・盲学校・大学・地域住民との交流、企業団体等の出前授業、芸術文化体験等の施設利用など、地域社会と関わる取組が、**62事例実践された**。「社会の中で本物に触れて学んで欲しい」という教員の声から、積極的に地域との連携が進められた。活動の場が広がり、地域社会の様々な人と関わることで、子どもたちの素敵な面や苦手なこと、本校の取組についても、知ってもらえる機会が増えた。



大学での自校製品の販売

○職員室で「ウェルビーイング」というワードが出る！→教員が「働き方」「良い状態」を意識

超過勤務時間が、一人当たり月平均2時間減！(前年度比)「ウェルビーイング」という言葉が、職員室で聞かれるようになり、自身の働き方やワーク・ライフバランスなどに目を向ける雰囲気が出てきた。それが「働き過ぎの自覚」や「個人の業務精選」などにもつながり、「教員自身のウェルビーイングを考えられる学校」へと、全体の意識が変革してきている意義は大きい。今後は、教員の「ウェルビーイング」に向けても、**地域と協働した実践をさらに広げていきたい！**